

令和7年度 蒲郡市総合計画外部評価の実施結果

1 第五次蒲郡市総合計画とは

令和3年6月に策定された、本市の最上位計画であり、市制の運営やまちづくりの指針となるものです。総合計画に示す指針や方向に基づいて、各分野における計画や施策を内部、及び外部から評価をしながら、将来の都市像に向け施策の改善を進めるものです。

2 蒲郡市総合計画外部評価の目的

総合計画に関する進捗状況を把握し、行政外部の第三者の視点で評価することにより、客観性及び透明性を確保するとともに、更なる行政サービスの向上と効果的な行政運営を図り、進捗状況に関して、最適化を図っていきます。

3 基本施策評価対象

施策評価は、令和7年度では、第五次蒲郡市総合計画にある基本目標6つの内、「安全・安心」から「防災・減災」、「環境保全・生活衛生」の2つの基本施策、基本目標「産業」から「観光」、「商業・サービス業」の2つの基本施策を対象とし、計4施策を外部委員により評価していただいた。

4 評価手順

基本施策評価

第五次蒲郡市総合計画を構成する基本施策について、成果指標の達成度等から現状評価を行い、必要性、有効性、効率性等の視点から今後の見直し改善策を明らかにしました。

(1)内部評価

担当課で評価シートにより自己評価を実施し、施策の進捗状況や課題などを踏まえ現状評価を行い、特筆すべき成果や課題、今後の改善点・方向性などについて総括しました。

(2)外部評価(「別紙」のとおり)

評価の客観性をより高めるため、蒲郡市総合計画外部評価委員会において内部評価を検証しました。委員が選定した4施策について、施策の進捗状況や課題等から現状評価を行い、課題や今後の改善点・方向性等についての委員の意見を取りまとめました。

(3)その他

総合計画の評価の一環として市民の意見を聞くことが重要であることから、毎年2

回、市民と市長との対話の場所として開催される「まちづくり市民フォーラム」、2年に1回実施される市民意識調査を評価の一環として行います。

5 総合計画外部評価 総括

(1) 定量評価

施策名	①目標指標の達成度、及び達成度に伴う改善策	②事業の成果	③事業の効率化	④課題認識及び解決への取組	⑤今後の方向性
防災・減災	2.9	3.3	3.3	3.0	2.9
環境保全・生活衛生	3.1	3.5	3.3	2.9	2.9
観光	3.0	3.3	3.0	2.9	2.9
商業・サービス業	2.6	2.8	2.9	2.6	2.6

※4段階評価 4.適正 3.おおむね適正 2.改善の余地あり 1.抜本的改革必要

①「目標指標の達成度、及び達成度に伴う改善策」については、多くの施策で3(おおむね適正)という評価を受けたが、「商業・サービス業」に関しては、改善策が明瞭ではないという指摘もあり低い評価となっています。②「事業の成果」については、「環境保全・生活衛生」は、市民の自主的な活動への支援など協働による取組が特に評価されています。一方、「商業・サービス業」においては取組が成果に表れておらず低い評価となっています。③「事業の効率化」には、多くの施策で3(おおむね適正)という評価を受けたが、各施策に共通してSNSの活用方法や多様な相手に伝える手段など情報発信の工夫が求められています。④「課題認識及び解決への取組」と⑤「今後の方向性」について、多くの施策で3(おおむね適正)という評価を受けていますが、「商業・サービス業」で低い評価となっており、空き店舗対策、担い手育成への取組強化が求められています。

(2) 定性評価

・防災・減災

防災・減災に関しては、災害協定締結数の増加、充実した市民総ぐるみ防災訓練が評価される一方で、緊急情報配信サービスや地域の防災訓練に関しては課題が指摘されています。市公式LINE登録者数増加は良好ですが、高齢者を含む幅広い世代が利用しやすい情報発信の工夫が必要です。地区防災計画策定や防災ラジオデジタル化は好評であり、地域の防災訓練のマンネリ防止や参加者拡大が求められています。多言語対応やジェンダー・障がい者配慮など避難所運営の充実とともに、啓発活動を通じた市民協力者の増加が期待されています。

・環境保全・生活衛生

環境保全・生活衛生の取組は概ね良好で、環境苦情への迅速な対応や市民協働による530運動・クリーンキャンペーンが高く評価されています。コロナ禍で参加者が減少した課題に対して、周知やイベント連携を通じた参加促進が求められます。広域的な連携や環境学習の継続によって市民の意識向上を図り、関心が薄い世代には企業や教育機関と連携したアプローチが必要です。自然環境を守る取組を強化し、自発的な参加を促す仕組みを推進することが期待されています。

・観光

観光客数はコロナ禍で減少しましたが、回復傾向にあり、また、体験型プログラムについては、プログラム数、参加者数ともに増えており、参加者満足度も高いことが評価されています。おもてなしコンシェルジュの拡充、英語ボランティアガイド育成など新たな取組が進んでいますが、活動機会の充実や若手ガイドの育成など一層取組を進めていく必要があります。インバウンドや市外客の需要を伸ばすための観光施策に関する方向性を明確化し、市民・事業者との連携、ユニバーサル対応、地域資源の磨き上げを進めて、国道23号バイパス全線開通やアジア・アジアパラ大会を通して、交流や宿泊型観光の促進が期待され、地域と一体となった持続可能な観光基盤の構築が求められています。

・商業・サービス業

商業・サービス業では、「福寿稲荷ごりやく市」において、若い世代やこれまでなかった多様な関係者を巻き込み、地域活性化に向けた新たな取組が行われていることが評価されています。一方、広報不足や後継者育成が課題となっています。卸・小売業販売額の減少に対する対応として商工会議所との連携の充実や空き店舗の活用等が求められています。また、新たな創業者育成や市民を巻き込んだ創業支援が評価される一方で、市外へのPRや事業承継施策の充実が課題です。創業塾の強化や空き店舗活用を通じてエリア魅力を高め、恒常的ににぎわいを生む体制構築が期待されています。

6 今後の方向性

市の様々な分野における外部評価を総括すると、市民の期待に応える施策展開への取組が進んでいますが、まだ改善の余地がみられました。防災・減災における多様なニーズへの対応、多世代が一体となった環境保全・生活衛生の普及、観光資源の磨き上げと持続可能な観光まちづくりの推進、空き店舗対策や後継者育成へのサポート強化など、各種施策において、市民・事業者の声に耳を傾けて、情報発信を一緒に行うなど、連携による効果を高めながら、持続可能な施策の展開及び各分野間の連携が求められています。これらの評価を踏まえて、「豊かな自然 一

人ひとりが輝き つながりあうまち ～君が愛する蒲郡～」を目指して事業改善に取り組むことが期待されています。